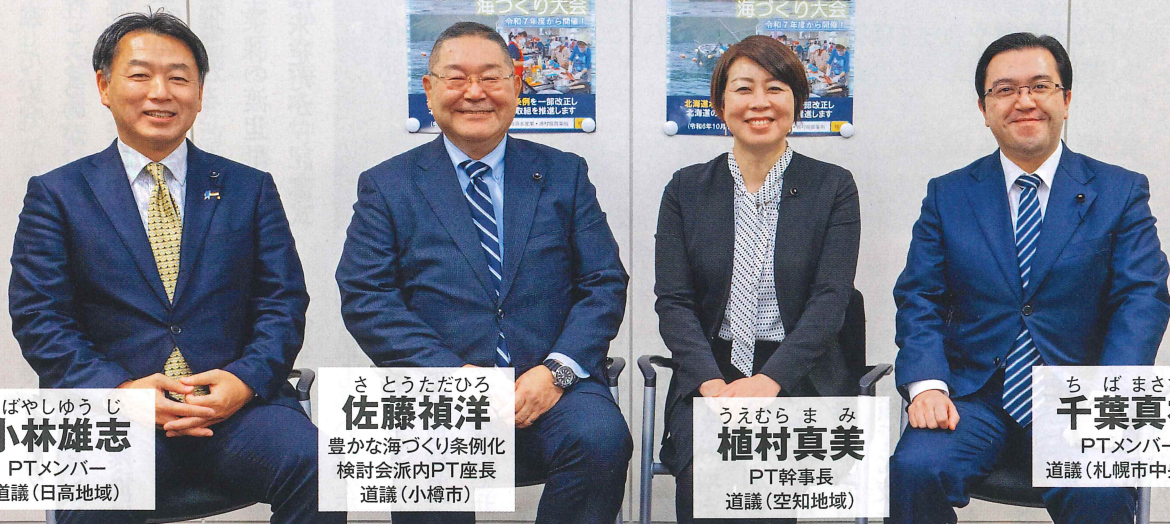


# 海づくり大会開催で地域を活性化 みんなで守ろう!北海道の豊かな海



こばやしゆうじ  
**小林雄志**  
PTメンバー  
道議(日高地域)

さとうただひろ  
**佐藤禎洋**  
豊かな海づくり条例化  
検討会派内PT座長  
道議(小樽市)

うえむらまみ  
**植村真美**  
PT幹事長  
道議(空知地域)

ちばまさひろ  
**千葉真裕**  
PTメンバー  
道議(札幌市中央区)

水産資源の減少、漁業者不足など、厳しい状況に直面する本道水産業。豊かな海づくりを次世代につなぐために何をすべきかについて、条例改正議論をリードしてきた検討プロジェクトチーム(PT)の4人に話を伺った。

——条例化まで経緯を簡単に説明いただけませんか。

**佐藤** 議員の間では「林業のイベントは植樹祭があるけれど、海はないよね」という話が元々あったんですが、直接的な引き金になったのは、厚岸町で開かれた「第42回全国豊かな海づくり大会」です。大会後の令和6年第1回定例会一般質問で、私が鈴木知事に「全国大会の理念を次世代に継承していくために、北海道大会の開催が必要ではないか」とただし、「検討していく」との前向きな答弁を得ることができました。

ここがスタートになって自民党会派内に条例づくりのプロジェクトチーム(PT)が立ち上がり、こちらにいる3人と検討を続けてきました。超党派の条例検討会議での議論を通じて10月の第3定例会に議員提案し、可決されました。新しい条例をつくる案

もあったんですが、すでにある北海道水産業・漁村振興条例の改正でも大会は開催できるだろうということになり、スピーディーな形で新たな条例を誕生させることができました。

千葉さんにはコンセプトから内容に至るまで素案をつくっていただいて、小林さんには水産林務委員会での質問をしてもらいました。植村さんには政策の取りまとめを行う政策審議委員会との橋渡し役としてサポートしていただき、いいチームワークで進んでいた感じですよ。

**植村** 私の選挙区の空知地域には海がないんですが、水産林務委員会に所属しているということ



関わらせていただきました。振り返って感じるのは、水産業のために頑張ってきた方々の思いがあつて、水産業を取り巻く環境の厳しさ、全国大会が北海道で38年ぶりの開催、さまざまなことが重なって条例化の流れが一気に加速した。1年以内に条例ができるということは普通はありえないです。

—— 条例案をつくる中で気をつけた点などありますか。

**千葉** 行政側がつくった条例を議員提案で改正するというのは、実は初めての試みだそうです。元々の形を崩さずに、しかし、私たちの思いをしっかり入れるという部分を心がけました。全国に



は先行して海づくりの条例がある自治体もあるので、そういったものを参考にしながら作業を進めました。

私の選挙区は海のない地域で、お魚を消費する側ですが、豊かな海をつくっていくためには、浜の皆さんだけではなく流通や小売り、消費者が一緒になって力を尽くす必要があります。今回、「北海道の豊かな海を守り育てる」という理念を明確にしたのですが、今後の政策に反映していきたいと思います。

—— 第1回目の北海道大会はどんな大会を指しますか。

**佐藤** 一昨年の北海道大会はコロナが5類になった直後で、参加者の制限などは続いていましたが、四大行幸啓の一つとして天皇、皇后両陛下を迎えるということが地域にとつてどれだけ

け励みになるかということ、じかに見せていただきたいことを、

**植村** 厚岸での海づくり全国大会に出たときに、地元の人たちからは「こんな素晴らしい大会を開いてくれてありがとう」という言葉をかけられ、水産業の皆さんの熱い思いに感動しました。北海道大会の開催が豊かな海を子供たちにつないでいくということの大切さを理解してもらうきっかけにもなってくるだろうし、これこそが大会の意義でもあると感じます。

**佐藤** 全国大会を手に北海道大会をどういう内容にするか議論

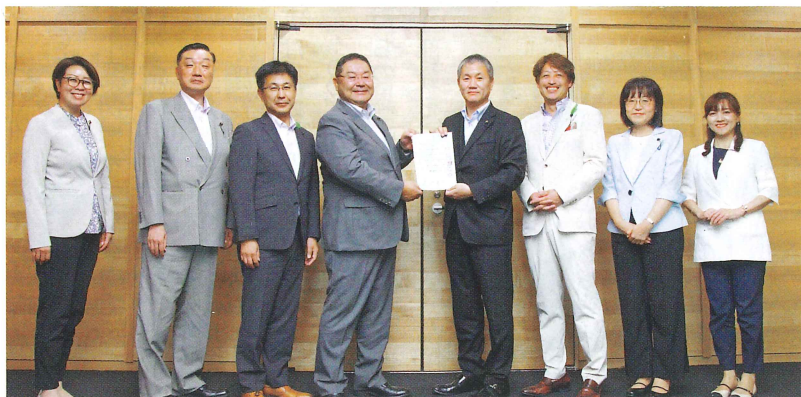
していますが、全道から人が集まるとなるとアクセスや宿泊施設のキャパシティの問題が出てきますから、札幌から近い小樽が開催地に決まりました。開催頻度は毎年とか、何年に1回とか、あまり固定しない方がいいと思うんですね。無理に毎年開催にして

浜の負担になつても困るわけで。

**植村** キャンプをするとか、開催地によつていろいろなバリエーションがあつてもいいですよ。木、山、川はすべて海とつながっていますから、海がない地域の子どもたちにも海の大切さを知ってもらいたい。

**千葉** 全国大会は過去、岐阜や奈良などの海がない県でも開催





昨年9月に富原亮議長に超党派の検討会議が条例改正案を提出

くは消費地での開催があってもいいですね。

——水産業を取り巻く環境は厳しい状況が続いていますが、どう振興を図っていきますか。

**小林** 私は日高地域選出ですが、どんな魚がとれるかを意外と地元の方でも知らないんですよ。サケやコンブがとれることは知られていますが、それ以外にも四季折々の魚があるので、新しい条例ができたことで、そういったものを知ってもらえたらうれしいですね。大会の開催などでエリア全体が団結して何かをやるというのは、漁協間の連携強化のきっかけにもなるんじゃないかと思えます。

**佐藤** 陸上養殖の可能性は内陸部でも広がっていますよね。トレーラーハウスを使ったりすれば中央区でもやれるかもしれない。土地代が高そうだけど……。

**植村** 空知でも美唄市で「雪うなぎ」のブランドでニホンウナギの養殖をやっていますし、上砂川で

もニジマスを育てて魚醬をつくっているんですが、すごくおいしくてビックリしました。地球温暖化の影響で海洋環境が変化して、今までとれていたものがとれなくなるということが実際に起きていますが、マイナスなことばかり考えるんじゃないくて、新たにとれるようになったブリ、フグ、そういったものを食べる文化を広めたりしていけば楽しいんじゃないかなと思います。

**千葉** 最近フグがとれています。加工施設が十分じゃないので関西に持って行って消費されてしまみたいですね。調理師団体の皆さんの力をお借りしながら、加工の仕方や食べ方を提案していくことも大事です。

**佐藤** 温暖化の話が出ましたけれども、厚岸大会では海洋プラスチックごみや漁業系プラスチック廃棄物をどう再利用していくかがテーマとして大きく取り上げられていました。海洋環境の保全活動はますます重要になると

思います。

**植村** 先日、秩父別町のイベントに行ったら北大水産学部の学生団体がコンブを使った商品を売りに来てたんです。全道の漁村を訪問して情報発信している「レディ魚さかな」という団体なんです。学生が漁業者と一緒に水産業界の未来を考えるという取り組みも面白いなと思いました。

**佐藤** 漁港に観光客を呼んで、そこで商売をして地域を元気にしようという「海業うみぎょう」が道内でも何か所かで始まっていて、こうした取り組みを海づくり大会を通じてPRして地域活性化の起爆剤にできれば面白いですね。

**小林** 浦河町では10月からサーモントラウトの試験栽培が始まりましたが、岸壁からポットで10分くらいの場所なので子供たちが見て学べるし、観光客に見せることもできると思います。

**佐藤** 水産業が抱える課題解決のためにも、小樽大会の成功に向けて準備を進めていきます。

しているのが、北海道大会も最初のうちはやっぱり浜での開催になるでしょうけど、全道どこでも候補地になり得ると思います。札幌の中央卸売市場があるのは中央区で、市場の方々にも「自分たちもやれることは頑張りたい」と仰っていたので、ゆくゆく